

ミニオーラル 240 / 手術機器 器具 1

【司会】

富永 哲郎 (長崎大学病院外科学講座大腸・肛門外科)

2025/12/13 08:00～08:50 MO-12 パシフィコ横浜 展示ホールAB

【MO240-5】 08:00～08:50

蛍光ガーゼナビゲーションによる安全な大腸癌手術

印刷

【筆頭】渡邊 良平 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)

【共同】

青木 武士 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
田代 良彦 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
伊達 博三 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
松田 和広 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
草野 智一 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
山崎 公靖 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
渡辺 誠 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
山上 裕機 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
安永 秀計 (京都工芸繊維大学繊維学系)
安藤 慎治 (東京科学大学物質理工学院応用化学系)
望月 清孝 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
富岡 幸大 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
北島 徹也 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
藤森 聡 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)

蛍光ガイド手術は、近年外科領域に広く応用されつつある。今回われわれは、インドシアニングリーン(ICG)で染色した蛍光発光性の手術用ガーゼによる安全な大腸癌手術手技について報告する。

方法：ICG蛍光ガーゼ (Yoshihiko Tashiro; Langenbecks Arch Surg. 2025) は、昭和医科大学、東京科学大学、京都工芸繊維大学の三大学の医工連携で開発された手術用ガーゼを使用した。2024年1月から2025年4月までの腹腔鏡およびロボット支援下手術を対象に使用した。

結果：左側大腸癌症例において、内-外側を交通させる際の蛍光ナビゲーションとして通常ガーゼではわかりづらい場面においても蛍光ガーゼをガイドとして安全に内-外側を交通することが可能であった。右側大腸癌症例においても十二指腸前面においた蛍光ガーゼをガイドとして膵側および外側から交通させる際に有効であった。通常米ではガーゼの所在が不明であった症例の全てで、ガーゼの蛍光により同定が可能であった。ガーゼの紛失を想定して小腸間膜内や横隔膜下にガーゼを留置したところ、蛍光により容易に同定できたことから、ガーゼ遺残の防止に効果的と考えられる。

結語：手術を確実にガイドし、ガーゼ遺残を簡便に予防する「光る手術用ガーゼ」による安全な大腸癌手術手技について報告する。